私たちの生活と電気

学校名：豊橋市立植田小学校　名前：中野真一

対象	6学年
科目	理科
時間	10時間

参考資料

『あおいほしのあおいうみ』
ほか

単元名

私たちの生活と電気

目標

その1　電気の量や働きを多面的に考えることができる。
その2　エネルギー資源の有効利用という点から、電気の効率的な利用にや未来の自分たちの暮らし方について考えることができる。

期待できる学習効果

・その1　電気の性質や働きについて学んだことを学習や生活に生かすことができる。

・その2　問題を見いだし、予想や仮説をもとに解決の方法を発想し、問題解決に向かおうとする。

・その3　他者とかかわりながら問題を解決しようとする。

授業内容

6年生の理科「私たちの生活と電気」の単元において、子どもたちが電気にかかわる知識を深め、自分たちの暮らしと向き合ったところで、カーボンニュートラルに関する児童をクローズアップし、そこからブルーカーボンに目を向けさせて本を活用しての調べ学習を行った。

子どもたちの反応・感想

海の植物にも陸と同じく二酸化炭素を吸ってくれるこ知ることができました。
でも、今地球にある多くのゴミが海にあつまってきていることを知りました。そのゴミの中に有害な物がはいっていたら、イソギンチャクや、海草などでいった。植物が海から消えていくにつれて、魚も住む所がなくなりいなくなってしまうのかなと思いました。ここから自分にできることは、魚た使いなどをへらし海から少しずつゴミをへらしていくのが大切なんだと思いました。

・海はいっぱい自分たちたかえてくることをした。
このことをしてて海のゴミは、私たちがそうぞうジェリで多いことをして海にゴミをすてないようにすることやシャンプーやゆをつかいすぎないようにしようと思いました。

・P17の どうして地球がちょうど良い場所にできたのか、どうして左右ではなく前後に星がある在するのか気になった。
・P27の 海ができたき、かけがそうぞう以上にファンタジーみたいで興味が出た

私は、P68、69の因島は日本でいちばん海洋ごみが多い島」のところです。理由は、プラスチックごみの問題や、ごみの種類などくわしくかいてあったからです。どうして、漁具や発泡スチロールなどが海にすてられて、どういう人がすてているのか知りたいです。ゴミひろいなどのボランティア活動に参加することなら自分たちにできると思います。

私は50の51ページについて興味をもちました。理由は私は家でカメや金魚などを飼ってるからです。よっぽどポリぶくろなどを入れたりしませんが、説明を読んでいると危機感を持ち気をつけなきゃなと思いました。

私はこの本で海とはSDGSのこともかかわっていることが分かりました。
魚たちはかわいそうだなって思って自分たちはちゃんとごみを海にすてずに自分でちゃんとごみをすてたいです。海にごみを捨ててあったら自分はごみをひろいたいです。

P70の海そうがとれる量が50年で49.29%も減っているのだったら そのまま50年後や100年後はまた海そう魚は残っているのか気になる。
P78にあるごみのリサイクルがむずかしい!!ということは知っていたけどなぜむずかしいのかはわかっていなくて、この本を読みリサイクルをしても強度が弱くなるならリサイクルしないに捨てないといけないのではないかと思いました。
P80のブルーカーボンをたくさん作れば地球温暖化は少しずつとき、ていき50年前と同じ状態になるんじゃないのかなと思いました。

この本を読んで海に炎を捨てずに車にのって家で捨てると家の人やおばあちゃんやおじいちゃんやいとこいとこの親にもつたえて海のゴミの量を少なくするようによびかけます

私は、本の中の、「海の中の生き物」に興味を持ちました。海の外にいる生き物や、深海にいる生き物のことがくわしく書いてあるのが分かりやすくて理解しやすかった。海の生物の歴史についてもとても大切だと思いました。九州のヒューマカメや、ジャチなど、いっぱいじょうしたのかがもとしりたくなりました。この本を読んで、海の生物をもっと大切にしようと思いました。いろいろいるのは、カメがビニールぶくろなどを食べてしまうらしいのかもしれないけど本を読んでいくとカメよりかにおおくさんの生物がゴミを食べて死んでしまうことをしりました。私たちが海をもっと大切に海も、生物も守っていこうと思いました。

もともと海はすきでよくいくけどペットボトルやビニールぶくろが海岸にあったりしていたけど66ページの中ほどゴミがうち上げられたり海の中にはもっとゴミがしずんでいると思うと1人1人のどりょくで1つ1つの命をたすけられると思いました